

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
編集者：代表幹事 高橋賢一  
連絡先：市民活動支援センター  
尾張旭市渋川町三丁目5番地7  
(渋川福祉センター内)  
TEL 0561-51-2878



レジ袋、ストロー、ペットボトル、私たちの暮らしにあふれるプラスチック製容器、外線などでマイクロ化したプラスチックは、どんなルートで

海へと流出するのか、その仕組みとどこに、脱プラスチックに向けた動きと講演された。

第一部 基調講演  
マイクプラスチックと伊勢湾の現状  
四日市大学環境情報学部  
教授 工学博士 千葉賢一

第15回 環境フォーラム  
「林と川と海」のメカニズム

命の海が今やごみ  
終着点に  
マイク  
プラスチック



年間、約12,000トンのゴミが伊勢湾の海岸に流れ着いている。

マイクプラスチックとは、一般的に5ミリメートル以下の微細な粒子を指す。有害な化学物質を添加剤として含んでいるため、海水中から吸着したりしやすい。魚や海鳥にとって有害で、生態系への影響も懸念されている。おもに石油から作られ、自然界で分解されないプラスチック。日本は、そのうちの割合を多く焼却（熱回収）し、CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）などを放出しており、地球温暖化を含めた観点で問題視されることも。食物連鎖  
マイクプラスチック自体は人体で消化されず影響はない。ただし有害物質が食物連鎖



年間、約12,000トンのゴミが伊勢湾の海岸に流れ着いている。

によって高濃度に濃縮されるおそれもある。プラスチックが大量生産、消費されるようになって60年程度、健康へのリスクは不明な点が多い。

